



鈴木局長の記念植樹の様子

とよま森の祭典

会場には、ゆるキャラ?の「ミナモ」「あすはちゃん」「どんぐりくん」、地元山県市の「ナツチヨルくん」(山県市観光親善大使。ナチュラル(自然)と果実が実る「なつちよる」という言葉が由来で命名。特産の柿をモチーフとしたキャラクター)もイベントの進行に参加し、会場を盛り上げていました。

「富山署」第十四回とよま森の祭典が五月二十四日滑川市柳原の「滑川市スポーツ・健康の森公園」で置県百三十年、滑川市制六十周年の記念行事の一環として「未来へとつながればくのおおきなき」をテーマに開催されました。

当日は、五月晴れの好天に恵まれ、花とみどりの少年団員や農林漁業関係者ら約二千名が参加し、滑川市の花木ツツジ



森のクラフト作りをする参加者

のほか、シダレザクラやヤマモミジなど約一千本の植樹と古くから薬業が盛んだった土地柄から、ハーブや薬草約三千四百株も植えられました。

また、同時に開催された「森とふれあいフェスティバル」では当署も参加し、ブースに、木材の循環的利用や災害の防止など森林のもつ公益的機能のPR用のパネルの展示と森林クラフト教室を開催したところ、花のしおりと森のクラフト作りに順番待ちができるなど大盛況に終えることができました。

「ふるさとの森づくり県民の集い」

長野県植樹祭

「技術普及課」五月二十五日(土)、佐久市の白田総合運動公園にて、長野県中部森林管理局、佐久市などが主催する「平成二十五年度ふるさとの森づくり県民の集い(第六十四回長野県植樹祭)」が

盛大に開催されました。

当日は、地元のみどりの少年団をはじめ、林業関係者や多数の協賛企業等およそ一千四百人が参加し、「美しき森のかがやき 永遠に」を大会テーマに、佐久市の市有林にカラマツのコンテナ苗等およそ三千本の植樹を行いました。また公園内の修景伐作業も同時に行われ、五月晴れの爽やかな陽気の下、多くの親子連れが汗を流しました。



鈴木局長の挨拶の様子

このほか、今回の植樹祭では、平成二十八年に長野県で開催が予定されている全国植樹祭に向けたイベントとして、局長をはじめとした来賓の方々によるカラマツの種まきも行われました。このカラマツは、長野県林業大学の生徒さんにより三年間大切に育てられ、全国植樹祭で植えられる苗木となります。

会場内には二十軒もの店や展示等のテントが立ち並び、長野県内の「アルクマ」を筆頭に「ゆるキャラ」たちも大集結。シカ肉料理(ジビエ)の提供や、地元佐久の特産品販売、木工体験コーナーなどが家族連れで賑わう中、カラマツの新たな木材利用形態である「チップボイラー」も展示されており、多くの参加者の目を引いていました。



植樹祭参加者

東濃署に感謝の意をこめ

地域団体が桜植樹

「東濃署」五月十六日、東濃森林管理局が長年地域振興に寄与したなどとして庁舎前駐車場へ桜苗木二十本の植樹を地域団体の方々に行っていただきました。

この記念植樹は、中津川市付知町の様々な団体等で結成している、付知町ま

ちづくり協議会、付知町優良材生産研究会、名古屋林業土木協会付知支部が発起人となり、当署が現庁舎を新築し十年となること及び国有林材の木曾ヒノキが供給されている第六十二回伊勢神宮式年遷宮が行われることを記念し計画されたものです。

当日は、天気にも恵まれ、二十名ほどで手際よく植樹することができ、今後の開花を楽しみにしています。

また、本年十一月二日には付知町まちづくり協議会等から中部森林管理局長、東濃森林管理署長への感謝状贈呈式も計画されています。

当署としても感謝の意をあらわすために同贈呈式にあわせて、木材をふんだんに使った署庁舎の見学や今回の植樹箇所へ中津川市の市の木である「こうやまき」の植樹を計画し、また、NPOつけち等が主催し国有林内を歩く「ハツラツウオーキング」への協力も行う予定としています。



桜植樹作業

「遊々の森」で植樹体験

【中信署】平成二十五年五月十七日、松本市本郷小学校が、中信森林管理署管内の御殿山国有林二五一林班において、植樹作業を行いました。

作業地は平成十四年に発生した森林火災跡地で、翌年十五年に同小学校と「遊々の森」の協定を締結した地区の中、同小学校では、この山を「どすこい山」と呼び総合学習のフィールドとして植樹などの活動を続けてきました。

今回の植樹は、昨年の七月にこの「遊々の森」九・七五ヘクタールのうち、〇・〇六ヘクタールが再び火災に見舞われ森が焼失したことから、緑の再生を願う計画されたものです。



展望台での児童

当日は快晴に恵まれ、児童たちは、小学校から二キロに及ぶ林内の歩道を息を切らしながら登りきり、到着した展望台では北アルプスの雄姿に歓声をあげていました。

植樹時間になると気温も二十五度を超え、なれない鍬を振り上げる児童たちの額には、大粒の汗が光っていました。当署の職員の指導の下、コナラのコンテナ苗をぎこちない手つきで植えています。



植樹作業の様子

植栽本数は百五十本という小規模な植樹体験でしたが、児童たちは口々に「自分の植えた木が立派に育ってほしい」、「山火事の前のような山になってほしい」と今回の植樹活動の感想を述べていました。

コンテナ苗植付箇所の 現地見学会を開催

【南木曾支署】五月二十七日（月）、阿寺国有林においてコンテナ苗植付箇所の現地見学会を開催しました。

この見学会は、森林・林業の再生に向けた課題の一つである林業経営コストの縮減に向けて「植栽時期を選ばない」、「植栽が簡単」、「持ち運びが容易」、「活着が容易」等の特徴を有し、地拵や下刈りの省力化が期待できるコンテナ苗を実際に「見て」、「触って」、「植えて」を体験し、その普及等を図ることを目的に開催したものであり、木曾郡内の地方公共団体や林業事業者等から約五十名の参加がありました。



見学会会場の様子

当日は、局森林整備課造林係長からコンテナ苗の特徴やその特徴を活かした伐採と造林の一環作業システム等についての紹介、南木曾支署森林整備官から植栽方法の説明をした後、二人一組で実際にコンテナ苗の植栽を体験しました。参加者からは「植えやすい」、「扱いや



植栽実演の様子

すい」等の感想がありました。

また、以前にコンテナ苗の植栽を実施した林業事業体からコンテナ苗の利点と欠点、植栽に当たって苦労した点等についての話もあり、今後の課題等について参加者間で意見交換を行うなど有意義な見学会となりました。

今回見学会を行った場所は、今年度請負事業により八千七百本のヒノキを植栽することとしており、その内コンテナ苗を二千九百本植栽することとしています。

植栽後に、①裸苗を植栽した箇所、②コンテナ苗を植栽した箇所、③コンテナ苗を植栽後下刈等を省略する箇所の三つの条件の違う試験地を設け、それぞれ活着率、成長状況等について継続的な調査を行うこととしています。調査内容等については逐次中部森林管理局のHPで公表するなど、コンテナ苗の普及に取り組んでいくこととしています。

国有林ゴミゼロ運動を実施

「各署等」五月三十日のゴミゼロ運動に併せ、「国有林ゴミゼロ運動」を各森林管理署等において、一般観光客等の入り込みが多い自然休養林などの周辺の林道、歩道等を主として、関係市町村、関係団体のご協力も得て実施しました。

当日は天候が優れない中でしたが、関係市町村等三百五十七名、職員二百四名、延べ五百六十一名の参加がありました。

ゴミの集積量はゴミ袋二十袋及び軽トラ十一台分のゴミを片づけることができました。

今後とも、国民の皆様が森林にふれあう場の環境を整えとともに、不法投棄防止等の啓発活動を進めてまいります。



参加の面々(東信署)

マスコミ関係者が国有林を視察

「広報」六月四日、入梅したにもかかわらず絶好の晴れの下、金曜日(長野県内マスコミ各社の報道責任者の会) に対する国有林視察会を実施しました。

中部森林管理局の取り組みを紹介するため恒例となっている視察会ですが、今回は木曾森林管理署管内の上松町小川入国有林を視察箇所とし、マスコミ各社から四名が参加されました。

はじめに、ヒノキ高齢級人工林と御柚始跡地の視察を行い、木曾署の高嶋署長、櫻井総括森林整備官から、長伐期複層林施業や伝統文化への貢献等について説明を行いました。

午後は、赤沢自然休養林内の視察を行いました。

参加者からは「国有林の果たしている役割について理解を深めることができました。」との言葉をいただきました。最後



ゴミの集積(飛騨署)

に、局長から「現在、局署を挙げて森林・林業の再生に向けた取り組みを行っていることから、ご支援ご協力をいただきたい。」との要請をして視察会を終えました。



人工林施業地の様子

一般会計移行に伴う

林野庁キャラバン

「企画調整課」五月十七日、森林管理局において一般会計移行に伴う林野庁キャラバンが開催され、林野庁から経営企画課長、国有林野総合利用推進室長、経営企画課企画係長が来局され、局からは局長をはじめ各署長等が出席する中で、一般会計移行後の円滑な業務運営等に関する打合せが行われました。

会議では、奥田経営企画課長から一般



会場の様子

会計化に当たり、地域の森林・林業の発展に向けた、地域ニーズ把握や課題解決のために積極的に提案・実行し、実行結果をPRすることや綱紀粛正等について訓示がありました。

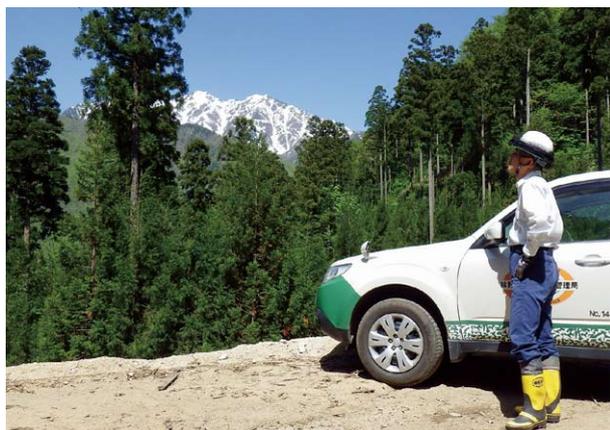
引き続き、石原国有林野総合利用推進室長から、①平成二十五年度国有林野事業主要取組事項、②平成二十六年予算要求を巡る情勢等について説明があり、長谷川企画係長からは、①木材利用ポイント事業、②森林・山村の多面的機能発揮対策等について説明がありました。また、局からは、職員の意識向上に向けた局・署の取組状況等が報告され、各署等からは平成二十五年度の重点取組事項が報告され、会議を終了しました。



「中信署鹿島森林事務所」

上島弘幸 首席森林官

鹿島森林事務所は、四月からの一般会計化に伴い、管轄区域が大町市全域の国有林を管理することになりました。中部山岳国立公園の稜線で五龍岳から槍ヶ岳までの約二万九千九百五十八メートルで中信森林管理署の国有林面積の約三割に相当します。当事務所は、人工林が約三パーセントしかなく、無立木地等が約三十パーセントを占め、七割近くが中部山岳国立公園であり、年間百万人近くの観光客が訪れる、黒部ダムの上野原側の玄関口となっています。特に今年は黒部



森林整備箇所と鹿島槍ヶ岳

ダム完成五十周年ということで様々なイベントが予定されています。ちなみに来年度はトローリーバスが五十周年を迎えます。

また、高瀬川流域森林整備推進協定を平成十九年三月二十九日から四年締結し、国有林・民有林が一体となった間伐等の森林整備を行ってきましたが、関係者と協議の結果、その後五年延長して森林の整備を行っていくこととしています。

さらに四月から管轄することとなった高瀬川国有林には、高瀬川上流の河川の中に、白色をした成層火山型の噴湯丘が立っています。これは、噴湯孔から流れ落ちる熱湯が途中で溶存している炭酸カルシウムとイオウを沈積して作り出したもので、現在熱湯を噴出して形成過程にあるもののほか、すでに噴湯を停止したものもあります。

この噴湯丘の最大のものは高さ十二メートル、噴湯口直径一・八メートルにも及びます。噴湯孔の中には球状方解石(俗にあられ石という)が産出されますが、この主成分は噴湯丘と同じ炭酸カルシウムで、大きいものは直径一メートルほどの球形をなしており、小さいものは一〜二ミリメートルで魚卵状です。また、噴湯丘や噴出箇所は湯俣川の洪水のためしばしば破壊されたり流されてしまいうなど大きく変化します。

この湯俣温泉噴湯丘は大正十一年十月

十二日国の天然記念物に指定され、今もなお噴湯を続けており貴重です。少し遠いですが、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



噴湯丘

人のうごき

中部森林管理局人事

六月一日付

▽岐阜森林管理署地域技術官(岐阜署付) 菅野 紀子

行事・会議等の予定

◎国有林観光施設協議会総会

7月2日 長野市

◎高山植物等保護対策協議会

7月12日 中部局



南木曽ろくろ細工

長野県木曽郡南木曽町は、木曽谷の南端に位置する町です。険しい山々に囲まれた地形にも拘わらず古来から交通の要衝であり、中山道木曽十一宿の一つ妻籠宿があることでも知られています。南木曽ろくろ細工は、こうした歴史背景のもとに、いくつもの時代を経て町の伝統工芸品としてその技術が受け継がれ、経済産業大臣が指定する「伝統的工芸品」ともなっています。

ろくろ細工は、厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削



手技を尽くし、材の良さを活かした品々は全国に知られ、白木の盆や椀を造って名古屋や大阪方面に取り引きされていきました。やがて「トクサ磨き」や「漆拭き」といった仕上げ加工を施し、その見事な完成品はさらに知れわたるところとなり、現在のろくろ細工として連綿と受け継がれています。

南木曽のろくろ細工は、木目の美しさ



南木曽ろくろ祭り (手挽ろくろ実演)

り出す伝統技術で、その作業の様子から「挽物（ひきもの）」とも呼ばれています。

南木曽地域では、中山道が多くの旅人で賑わう江戸時代から、木曽谷に育つケヤキ、トチ、センノキ、カツラ、ミズメなど木目の美しい広葉樹をろくろで挽き、木の国ならではの特産として盛んに造られてきました。

また、ろくろ細工に使用する樹木の育成や伝統文化の継承を目的に当南木曽支署管内の南蘭国有林において「南木曽伝統工芸の森」の協定を締結し、下刈や除



木地師の作業風景

が際立っていて、自然の風合いと手触りの優しさが特徴です。おもな製品は茶びつ、茶盆、椀、広ぶたなどの生活道具から、さらには大きな円卓まで、流麗な曲線と艶やかな光沢が独特の優美さをも出し出しています。

ろくろを廻して木をくり抜き、丸い形の器を作る職人を「木地師」と呼びます。とりわけ類まれなる経験を積み、技と感性に秀でた木地師は（財）伝統的工芸産業振興協会から「伝統工芸師」に認定され、芸術を究めながら後進の指導にあたっています。

伐作業の実施など将来の伝統工芸品の資材となるよう整備活動を進めています。



南木曽伝統工芸の森 整備の様子

◆所在地

長野県木曽郡南木曽町吾妻漆畑

「木地師の里」

◆アクセス方法

「公共交通機関」

J R 中央本線南木曽駅下車

町地域バス「保神線」約三十分

「自家用車」

中央自動車道中津川 I C 国道十九

号・国道二百五十六号経由で約一時間

◆お問い合わせ

南木曽町観光協会

電話番号 〇二六四―五七―二〇〇一